



(使用状態の参考例)

P-600AL-3 の特徴

- 前輪から縦吊りすることで、専有面積を最も抑えて2台の自転車を収納可能
- 車種やホイールサイズを問わないユニバーサル設計
- 軽量で錆びないアルミ製支柱は従来より200mm延長され、より大型の自転車にも対応
- 新型クランプにより、簡単かつしっかりとアタッチメントを保持
- 自立式スタンドのためどこにでも設置可能
- 前輪フックにはリムを傷つけないプロテクタを装備
- 最大荷重 50kg まで
(片側のみの場合はバランスが悪化するため 20kg まで)

注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント、ロングテール車ではお使いいただけません
- 必ず平坦で水平な床の上に設置してください。また各脚のアジャスタは正しく調整し、5ヶ所の接地点が同時に床に接するようにしてください
- 片側にだけ自転車を掛ける際は偏荷重状態になるため転倒させないようにバランスに注意してください
- クランプはアルミ製で軟らかいため、アタッチメントをクランプに止めるボルトはあまり強く締め込みすぎないでください
- アタッチメントを確実に固定するため、クランプのボルトの締め込み順序は正しく行ってください
- 転倒による事故を防止するため、できるだけ背面が壁になる場所に設置するようにしてください
- 同じく転倒防止のため、オプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください
- 前輪フックから吊った状態で、後輪が床面や脚に接地してしまわない高さに設定してください
- 後輪フックは自転車を固定するものではありません。重量バランスにより斜め後方に傾いてしまう自転車を手前に引っ張る役目をするのみです
- 後輪から吊り下げることでもできますが、ハンドルバーが張り出してくるのに引っかからないように注意してください

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒462-0062 名古屋市北区新沼町 150

Phone (052) 909-6201

Fax (052) 909-6212

Web www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元> 日本製

株式会社 箕浦 (営業部/カスタマーサービス)

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

Phone (0584) 27-3131 (営業) / 27-3132 (サービス)

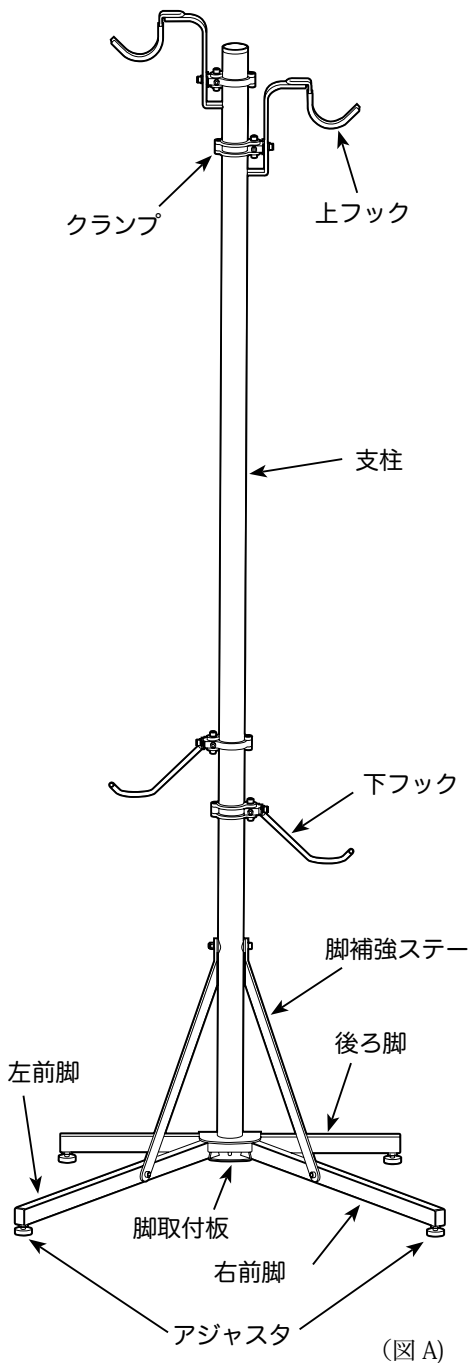
Fax (0584) 27-7505 (営業) / 27-4258 (サービス)

Email infodesk@minoura.jp (サービス)

Web www.minoura.jp

組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。もし万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

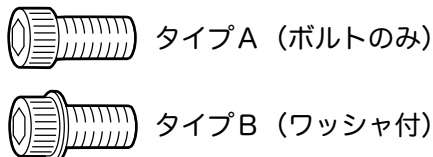
P-600AL-3 の組み立て方



組み立てに必要な工具

M5 六角レンチ (添付します)	1 本
10mm スパナ (添付しません)	1 本
13mm スパナ (添付しません)	1 本

ボルト形状の違いと呼称



<知っておいてもらいたいこと>

この商品に使われているナットは「ナイロンナット」といって、ボルトが緩んでこないようにナイロン製のリングを封入したタイプを採用しています。このナイロンナットは指だけでは締まりません。必ずスパナを使用してください。

ボルトの長さは、頭を除いたネジ部分（胴体部分）の寸法のことを示します。

例) M6x35 = ネジ径が 6 ミリで胴部分の長さが 35 ミリあるということ

- 1** まず最初に脚取付板に左右の前脚を取り付けます。

前脚を逆V字型に置きます。角パイプ製の脚のそれぞれ内側に脚補強ステーがあるようにしてください (図 A)。

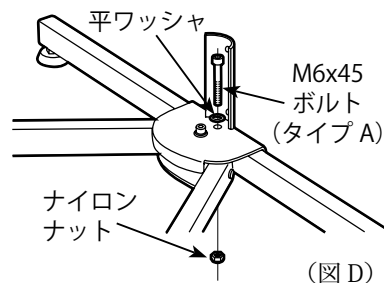
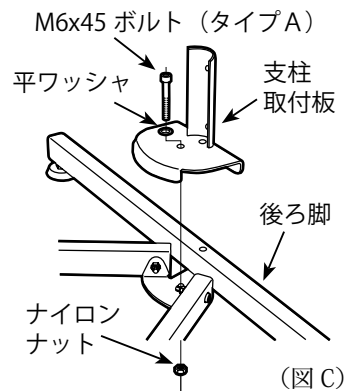
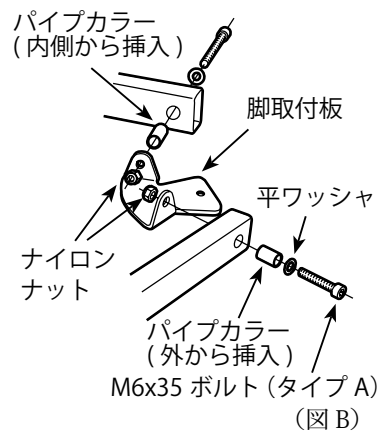
! 角パイプの脚自体は右側左側いづれも同じものを兼用して使用していますので、固定用ボルトを通す孔はいずれも右側が大きく、左側が小さくなっています。このことを正しく認識してください。

<右脚>

外側の大きい方の孔からパイプカラーを挿入し、そこに平ワッシャを通した M6x35 ボルト (タイプ A) を通し、脚取付板を通してからナイロンナットをねじ込んで締め込む (図 B)。

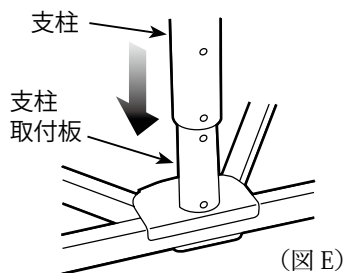
<左脚>

まず内側の大きい方の孔からパイプカラーを通しておき、次に反対側 (外側) の小さい方の孔から平ワッシャを通した M6x35 ボルト (タイプ A) を通し、脚取付板を通してからナイロンナットをねじ込んで締め込む (図 B)。



- 2** 前脚を装着した脚取付板の後ろのスペースに、アジャスタを下にした状態で後ろ脚を置き、K字型に配置します。その上から支柱取付板をかぶせ、手前側 (中心側) の孔に平ワッシャを通した M6x45 ボルト (タイプ A) を挿入し、ナイロンナットで仮止めします (図 C)。

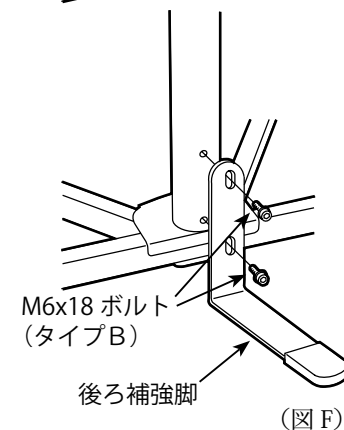
- 3** もう 1 本の M6x45 ボルト (タイプ A) に平ワッシャを通し、後ろ側の孔に挿入して後ろ脚を貫通させ、ナイロンナットでしっかりと締め付けます。手順 2 の手前側のボルトもここでしっかりと締め込みます (図 D)。



- 4** 脚に支柱を立てます。支柱は 2 つ孔のある方が下になります。支柱取付板の湾曲した金具が支柱の中に入るようにして支柱を差し込みます。支柱取付板の金具が支柱の外側にあるのは間違いです (図 E)。

- 5** 後ろ補強脚を支柱裏側にあてがい M6x18 ボルト (タイプ B) 2 本で支柱を貫通させて支柱取付板にねじ込みます (図 F)。

このボルトは今はまだ仮止めだけしておいてください。

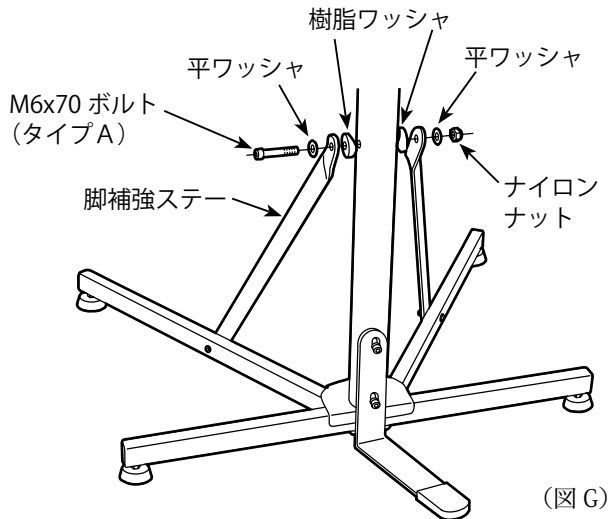


6 次に前脚と支柱とを連結します。

脚補強ステーを2本とも支柱の方に持ち上げ、支柱の中間にあいている孔のところまで移動させます。このとき脚補強ステーの捻られた先端がお互いに平行になることを確認してください。

M6x70 ボルト (タイプA), 平ワッシャ, 樹脂ワッシャ, ナイロンナットで支柱に取り付けます。樹脂ワッシャはいずれも支柱と脚補強ステーとの間に挟まれ、アルミ製支柱の傷と変形を防ぐのに使われますので、忘れずに装着してください。

しっかりとねじ込んだら、前脚・後ろ脚・後ろ補助脚の合計5ヶ所が同時に床に接地するように後ろ補強脚の高さを微調整し、仮止めてあった M6x18 ボルトをしっかりと締め込みます (図 G)。

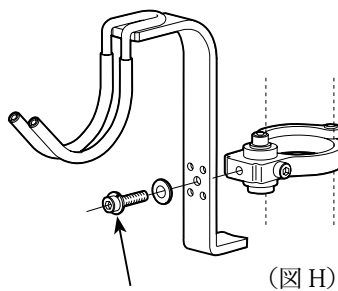


(図 G)

7 上フックと下フックをそれぞれ支柱に取り付けます。自転車1台につき上下フックが各1ヶ必要になります。吊り下げる自転車の後輪が脚や床に触れない高さになるよう、上フックの位置を決めてください。

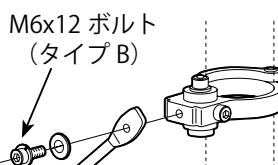
上フックは左右の自転車のハンドルバー同士が干渉しない程度に高さをずらしてセットする必要があります。

上フックは必ず支柱の真横に取り付けてください。手前や奥に斜めに取り付けると不安定になる原因となります。



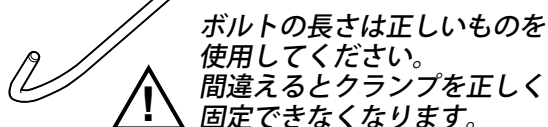
(図 H)

できるだけ自転車を垂直に吊り下げるには後輪の位置が重要です。後輪はフックで手前に引っ張られて保持されます。フックが後輪の中央部分を抱くように調整するのがコツです。



(図 I)

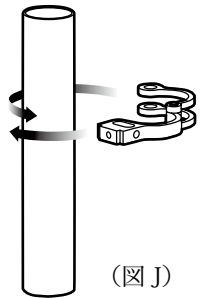
後輪フックは動くのが普通です。固定はできません。



クランプの取り付け方

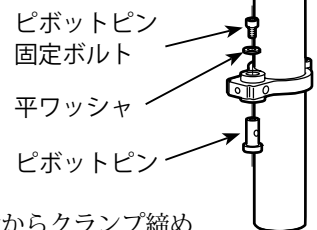
P-600AL-3には新型のアルミ製クランプを採用しており、より簡単にしっかりとアタッチメントを固定することができます。以下にクランプの取り付け方を示します (構造がわかりやすいようにアタッチメントは省いてあります)。

1 クランプは、1本アーム側が右側、2本アーム側が左側になるようにして支柱に巻き付けます (図 J)。



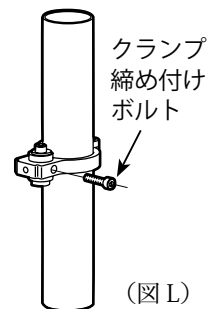
(図 J)

2 3本のアームを組み合わせてできた孔にピボットピンを通して、ピボットピンはクランプの下側から挿入し、上からボルトで吊り上げます (図 K)。最初は仮止めにしておいてください。



(図 K)

3 クランプの横からクランプ締め付けボルトをねじ込み、M5六角レンチを使ってしっかりと締め込みます (図 L)。



(図 L)

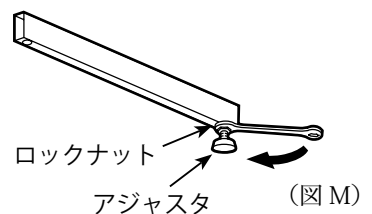
4 最後に、仮止めておいたピボットピン固定ボルトをしっかりと締め込んで位置決めは終了です。

! ピボットピン固定ボルトを先に締め込んでしまうとアームが動かなくなり、クランプをしっかりと閉じられなくなってしまいます。必ずクランプ締め付けボルト→ピボットピン固定ボルトの順に締め込んでください。

アジャスタの調整

P-600AL-3は背が高いので、ぐらつくとも不安定になり、最悪の場合転倒する恐れがあります。そのためできるだけ安定して立たせる必要があります。

支柱が垂直に立ち、かつ5点とも同時に床面に接地するようアジャスタの長さを調整してから、ロックナットを13mmスパナで脚側に締め込んで固定します (図 M)。



(図 M)